

アバター： 自己設計のトレーニング

ハリー・パルマー

科学では、特定のからだの特徴が個人のDNAに、遺伝子コードとして組み込まれていることを証明できます。ある人の青い目や別の人の茶色の目からたどれば、特定の遺伝的構造に行き着くのです。皮膚や鱗、羽や、髪などは、その他の何千というからだの特徴と同様に、先天的遺伝物質の観点から説明が可能です。

しかし本能や、社会行動、人の動機についてはどうでしょう？これらはどこから来るのでしょうか？

・・・本能や、社会行動、人の動機についてはどうでしょう？これらはどこから来るのでしょうか？

私は以前豚をペットとして飼っていて、豚は簡易住居を作るのが生まれつき上手いことに気づきました。おそらく「三匹の子豚」の話はそこから来たのでしょうか。最初の子豚はわらで家を立て、2匹目の子豚は木の枝で家を立て、そして3匹目の子豚はレンガで家を立てました。最後の部分はどこかのお話の語り手が少し独創的に仕上げたのではないかと思います。豚は実際簡易住居を作りますし、それがとても上手なのです。

私が飼っていたヴァイオレットという名の雌豚は、柔らかな土壌と枝の山から2～3時間で豚用簡易住居を作り上げることができました。彼女はいつもせっせと働いていました。彼女は何本かの枝を引っ張ってきて口に含んだ芝土と一緒にして積み上げると、その上に乗っかってそれを平らに伸ばすのです。それからまた何本かの枝を引っ張ってきて、芝土を口に含んで持ってくると、またそれを平らに伸ばしていくのです。

最初私は、ヴァイオレットが土台の部分を作っているのだと思っていたのですが、もしそうだったならばそれは高度な知性を示すものでした。土

台というのは実は人間が発明したものです。考古学の発掘をしていて土台に見えるような何かに突き当たったとしたら、それは発掘の価値があります。土台は本能的行動から知的行動への境界線を越えた証拠です。これは簡易住居を築く場合だけでなく、人生を築く場合にも当てはまります。

ともかくも、その豚は簡易住居を築いていました。それを上から下に向けてやっていました。踏み敷かれた枝と芝土の山が彼女の屋根でした。それが満足いく状態に見えると、彼女は鼻を使って端を持ち上げると、その芝のマットの下に潜り込みました。それから立ち上がると屋根を自分の背中のカーブで折り曲げて、今度は屋根の直径よりわずかに小さな円形に泥を重ねて壁を作り上げていきました。最後に1フィート程度の高さまで積みあがると、再び跪いてドーム型の屋根を壁の上に乗しました。私は自分が寺院や国会議事堂の自然な原型を見ているのではないかと思いました。

ヴァイオレットはとても手順良く、わずか午後後の時間で頭上に踏み固められた防水屋根のついた豚一匹の幅の完璧なドームを作り上げたのですが、その大半を内側から築いたのでした！出口も扉も彼女には簡単に出来たはずなのに、それが付けられていないことを私は面白いと思いました。最初私はそれを失敗じゃないかと思ったのですが、後から考えてみると、彼女がその数時間後にしたように12匹の子豚を生もうとしていてその仔豚たちをきちんと把握しておきたい場合には、彼女の扉なしのデザインの良さがわかります。

ヴァイオレットはもともと商用の豚牧場からやってきた豚で、コンクリート製の納屋で生まれて育てられていました。ですから簡易住居の作り方を別の豚から習ったわけではありません。それは純粋に本能の産物でした。私は彼女の鼻の幅や目の色はきつと遺伝子的要素で決まったものだと思います。DNAの組み合わせです。でも簡易住居の知識についてはどうでしょう？それはどこから

来たのでしょうか？それは何世代にも渡る自然淘汰によって発展してきた進化した行動なののでしょうか？何か・・・の深いレベルに何らかの形で保存されてきたのでしょうか？

避難場所を下さい

私は子供の頃、いつも小屋を建てていました。それは子供が発育途上で通過する一つの段階だと思えます。あなたはこれまでに居間の真ん中に毛布と椅子からテントを作ったりしたことがありますか？それは文化とは無関係の、共通した行動です。それはあなたのご両親がアジア人でも、インド人でも、アラビアの遊牧民でも、何であっても関係ないのです。発育途中の通常4歳ぐらいの時に、何かの下に潜り込みたいという願望を持つ段階があるのです。簡易住居を作ることは意識内の本能的な残響なのです。

かつて戦争や自然災害を経験した場所に行けば、たくさんの避難用建物を目にするでしょう。この本能的行動派が誘発されたのです。何かひどい悲劇のショックの中で論理的な思考や理性が遮断されているような場合でも、そうした完全に圧倒されてしまっているような状態の中でも、人々が段ボールを持ち上げたり、何かのプラスチックを広げて避難場所を作るのを目にするでしょう。実際、避難場所を作るのに技術的ノウハウはあまり必要ありません。この衝動は深く染込む本能、巣作り行動であり、それは自己防衛と最も初歩的社会行動、つまり有性生殖との間のギャップを埋めるのです。

ヴァイオレットが自分の家を建てるのを観察し、また人々の災害に対する反応を観察したことで、私はもしかするとからだの遺伝子が構造的青写真を未来の世代に伝えるのと同じように本能を未来の世代に伝える超越的集合意識のようなものがあるのではないかと考えるようになりました。集合意識。なんと驚くべき概念でしょう！それは

不思議な力や宗教、進化、そして展開していく宇宙の設計さえも暗示しています。これが肯定的な側面です。

一方否定的な側面としては、私たちがとても過去に影響されるあまり、未来と折り合いをつけることが出来ない可能性を提起します。過去の経験を模範とするのが、それが集合意識といった素晴らしくも神秘的なものから生じているものだとしても、おそらく最も控えめなやり方でしょう。それがおじいさんにとって上手くいったのなら、自分にとっても上手くいくだろう、というように。これは実際一つの哲学のかなり安全な出発点ではあるものの、おじいさんが上手く対処した問題はもはや今の人生の課題には含まれないことが考慮されていません。

1960年代に私はヒッピーの落ちこぼれというのをやり、畑仕事へと戻りました。私の計画は、食べ物を自給自足し、自分で家を建て、自分の努力で生活していくというものでした。でもご存知ですか？それは私がそれまでやったことのある中で、最も楽なことだったのです。何を育て、何を植え、どうやって建てるかという問題は全て、100年も前に解決済みだったのです。私には家があり、たくさんの食べ物があり、死ぬほど退屈していました。私は自滅の道を進んでいる気がしました。繁栄の状態は必ずしも自分が進化しているという意味ではなく、そして突き詰めて考えると、進化こそ人生の目標のように思われます。

私は以前、恐竜時代に熱帯に住んでいたネズミの話をしていました。この小さな四つ足動物は他に類を見ないものでした。というのもその動物は、あなたや私が毛と呼んでいる薄い一枚様の羽毛で覆われていたのです。

熱帯での毛というのは良い考えではありません。そこにあった環境上の問題には何の解決にもなりません。実際のところ、それは負担でした。その可哀想な生き物は地下に住んでまねばならず、外出するのは夜だけでしたが、それは毛

があるおかげで体熱を発散できなかったからでした。当然日中狩りを行うたくさんの残忍な肉食動物たちを避けることにもなりましたが、全体的には鱗や分厚い皮が当時の流行でした。

毛に覆われた小さなネズミが地下の隠れ穴に逃げ込むのを見て、ジュラ期の沼の偉大なる支配者たちが笑っていたのを簡単に想像できます。毛がある！地下に住んでるぞ！なんて変なやつだ！

それから雪が降り始めました。その後続く話

知性に自己設計を合わせれば、将来に対処する能力を目覚めさせるだけでなく、将来を形作る能力をも目覚めさせるのです。

は、分類学の立派な教科書が教えてくれるでしょう。ネズミたちは氷河期を生き延びました。恐竜たちはだめでした。

毛を生やすことは実は事前適応型の進化でした。それは過去の経験から生まれたのではなく、雪が降り始める前に起きた変異でした。とんでもない幸運と呼ばれてもかまいませんが、毛と地下にもぐる能力を持つことでネズミ族の祖先たちは将来に備えていたのです。もし律儀に生命の経験を記録して、次世代のために本能を設計している集合意識のログ（記録）があるなら、このネズミが新たな局面を開いたこととなります。

事前適応型の進化は知性の始まりでもありました。もしかすると毛皮は最初、単なる幸運な偶然による変異だったのかもしれませんが。しかしそれにより集合意識に、＜時には過去のパターンを破ることで生き残ることもある＞という教訓が加わりました。その宇宙的瞬間、この地球の生命は本能を超えて知性の探究へと踏み出しました―選択や決断とその結果の探究です。ものごとの大きな図式の中で本能は、予見したり、新たな能力を開発したり、将来繁栄するための行動を再構築したりできる知性によって静かに侵食されていたのです。

恐竜たちに本能ではなくもっと知性があれば、ネズミの皮のコートを着ることで氷河期を乗り切ったかもしれません。恐竜たちに欠けていた道具はアバターだったのです。

生物の感覚が鋭くなればなるほど、より自己設計ができるようになります。自己設計とは素晴らしい能力です。知性に自己設計を合わせれば、将来に対処する能力を目覚めさせるだけでなく、将来を形作る能力をも目覚めさせるのです。

何万人というアバターたちが、今起り始めている社会的気候の変化に事前適応する資質を自ら設計しています。彼らは社会的な「毛」を生やそうとしています―それは他者を慈しみを持って見る能力や、信頼する能力、分かち合う能力、他者への奉仕をしながら理性的に行動する能力です。

覚醒の雨が降り始めています。